
運命は回る

雪華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命は回る

【Nコード】

N4308R

【作者名】

雪華

【あらすじ】

大学三年で就職活動にアルバイトで毎日忙しい女の子がある日気が付いたら異世界に來ちゃってました?!そこから始まる運命の輪・
・。私は後悔だけはしたくない!!王子様や騎士、魔法使いも出てくる予定です。初めての作品なので拙い文章だとは思いますがよろしく願います。

プロローグ

ねえ、私は今幸せだよ

あなたに出会えたこと

あなたの声が聞けたこと

あなたと触れ合えたこと

あなたと共に過ごせたこと

そのどれもが夢のようで奇跡だったんじゃないかって思える

だから私は選んだんだよ

もう、

あなたの声が聞けなくなっても

あなたと触れ合うことが出来なくなっても

あなたと共に過ごすことが出来なくなっても

後悔なんてしてないよ

例え何百回何千回同じことがあっても私は同じことをする

だって

私はただ、あなたのその笑顔を守りたかっただけなのだから・・・

プロローグ（後書き）

読んでくれてありがとうございます！！

始めまして雪華といいます。

初めて小説を書く初心者ですが、頑張って行きたいと思っています。

感想、ご意見などあれば是非お願いします

これからもお願いします！！

1、ここは何処ですか？

……とりあえず落ち着け私!!!
何で今、私は森にいるんだあ?!

私は県内の4年制大学に通う普通の女子学生。ただ今大学三年生で就職活動の真っ只中だ。

昨日はある企業の説明会に行つて、お母さんの手料理を食べて、お父さんに就活についてガミガミ言われて、頭に来たからろくに話もせずにお風呂に入つて寝たのだ。

もちろん自分の部屋の自分のベッドの上で……

なのに……

「……ここ何処だよ……」

辺りを見渡しても木、木、木……
どう見ても自分の部屋じゃない。

しかも見たことも無い植物ばかりなんですけど。

青い葉っぱや赤い草、黄色い蔦まである、カラフルすぎて逆に不気味だわ。

とりあえずじつとしてても仕方ない。

森から出なきゃ。取り合えず歩いてたら歩道にでるだろう。

……皆さん覚えておきましょう。もし森で迷ったときにはその場で動かず救助を待つことをお勧めします。無闇に動く大変なこ

息が整いだし、その場を離れようとして立ち上がった時、

ガサガサガサガサ

何！？また何か出てくるの！？

「驚いた。声が聞こえると思って来てみれば、あんたがそいつを倒したのか？」

1、ここは何処ですか?? (後書き)

本編UPしました。

これからちよくちよく更新していきますのでよろしくお願いします。

2、あんた誰ですかあ???

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「さつきから森中に響いてた叫び声お前の声だろ??つかすげーなお前がそのモームを倒したのか?よく倒せたなあ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「おい大丈夫か??どつかケガでもしてるのか??」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「おい!!俺の声聞こえてるのか?!」

「つーーーーーーーーーうるさーーーーーいーーーーー
ー!!!!聞こえてるわあ!!!!つか叫び声が聞こえたならもつと早く助けにこいやあーーーーー!!!!あんたそれでも男かあ!!!!こっちは死ぬとこだったんだぞ!!!!こんなうら若き乙女を助けずに何を助けるんだ!!!!悲鳴が聞こえたらすぐ駆けつける!!!!これ常識でしょ!!!!なんでコトが終わってからくるの???はい、あんた役立たず決定!!!!これだから困るんだなあーーーー最近の男はあ。女の子一人助けられないなんて・・・。本当に男の風上にも置けないとはこのことだね!!!!だからもてないんだよ。寂しい男だねえーーーー」

「・・・・・・・・・・・・・・・・言いたいことはそれだけか?」

「いやいや、まだまだ言い足りないですけど??」

「……………もういいい！！お前ほんとに女かあ？
こんなに口やかましい女見たことないわあ！それよりもお前なんで
こんなところにいる？ここは立ち入り禁止地区だぞ！！」

うん？！立ち入り禁止地区？？

……………つかこいつ誰だ？？

イノシシもどきのことなんか変な名前で呼んでなかったっけ？？

つか『よく倒せたなあ』って普通は倒せないのかあ！？

一歩間違えば本当に死んでた私！！あぶなーーーー！！

ほんとに叫び声聞こえてたらもつと早く助けに来いよ！！

腰に下げてる剣はただの飾りなのか！？

……………うん？！剣……………？？

このご時勢に剣ですか？？銃刀法違反じゃないですか？？

つか……………

「あなた誰ですか？？？」

2、あんだ誰ですかあ?? (後書き)

あんまし進んでません!!

本間にすいません!!

3、私の名前は……

本当に誰だこいつ……。何で中世の人みたいな格好してるんだろ。しかも腰から剣みたいなのぶら下げてるし。本物かなあれ？？

「誰って……。はぁーお前俺を知らないのか？？本当に大丈夫か？？」

「はぁー！？あんたみたいに変な人なんか知るわけ無いじゃん！誰もがあんたのコト知ってるわけ無いでしょ！！知ってる？そう言うのって自意識過剰って言うんだよ！！」

「自意識過剰って……。はぁー。まあいい。俺の名は、クロエ・ヴァスルビス・マルクウエルだ。どうだ判ったか？？それで、お前は誰なんだ？？」

「私？私の名は祠堂飛鳥^{ついで}。純日本人で花の大学三年生やってます！とここでどこ何処？？私家に帰りたいんだけど」

「ニホン？？ダイガク？？何だそれ。聞いたこともないぞ。」

「は？？いやいや冗談はよして下さいよクロエの旦那ぁー。日本を知らない？？大学も判らないってあ。なたそれでも大人ですか？確かにクロエさんはフランス辺りの生まれっばいですが、今自分のいる国の日本を知らないってちょっと問題じゃないですか？大学も国最低2つや3つあったでしょうよ。いやいやこれだから困るんですよ、すぐに笑いに走ろうとする人は。笑いが取れるならまだしも完全に滑ってますからねクロエの旦那。日本を知らないって、じゃあ何ですか、貴方はアメリカやロシア、中国も知らないってことで

すか??どんだけ地理弱いんですか!!大人として問題ですよ。あ
あーやだよだ。それに……

「おい、一応忠告しておくが全て口から出てるぞ」

「のあー?!つい私の悪い癖が出てしまった!!」

「ついでに言うと、アメリカやロシア、チュウゴクなんて地名は聞いたことが無い。それにここはセゾンナル大陸のマルクウエル国だ」

「……セゾンナル大陸??マルクウエル国??」

「……何処だよソコ……」

3、私の名前は……（後書き）

やっと二人の名前出せました!!

でもぜんぜん進んでません。

次はもうチヨイ進めたいです。

頑張ります。

何か間違いや感想などあれば是非教えて下さい!!

お願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4308r/>

運命は回る

2011年10月8日20時32分発行